

取扱説明書

6輪電動車いす アクトモア M1

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がございましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア

目 次

1 ご使用上の注意	P2	安全ベルトの使いかた	P15
2 製品の特長	P6	電動操作部の折りたたみかた	P15
3 各部の名称	P6	車輪ロックの使いかた	P16
4 適合調整	P7	自動車での輸送方法	P16
フット・レッグサポートの調整のしかた	P7	移乗のしかた	P16
アームサポートの調整のしかた	P8	外出時の注意点	P17
座面の奥行き調整のしかた	P8	航空機に乗るとき	P17
座面の高さの調整について	P8	9 操作方法	P18
リクライニング角度の調整のしかた	P8	車いすに座る	P18
電動操作部の調整のしかた	P9	車いすを動かす	P18
アクトモア バックサポート リリーフの調整のしかた	P11	ティルト角度の調整方法	P18
アクトモア ヘッドサポートの調整のしかた	P12	電動操作部の速度調整・確認方法	P18
走行プログラム設定	P13	走行中のバッテリー残量確認	P18
5 使用前の準備と点検	P13	その他の機能	P19
車いすの点検	P13	車いすから降りる	P19
服装のチェック	P13	10 バッテリーのご使用方法	P19
バッテリーの残量確認のしかた	P13	バッテリーの特長	P19
6 走行診断チェック	P14	バッテリーの特性と取り扱い	P19
7 基本操作の練習	P14	バッテリーの充電方法	P20
8 ご使用方法	P15	充電ランプの表示と内容	P20
アームサポートの使いかた	P15	11 保守・点検	P20
エレベータリング式フット・レッグサポートの使いかた	P15	12 故障かな?と思ったら	P21
折りたたみかた	P15	13 仕様	P24

1 ご使用上の注意

⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】



- 勾配が10.5度以上の上り坂や10度以上の下り坂、または9度を超える横斜面では使用しないでください。
転倒したり、制動がきかなくなるおそれがあります。
- 本製品は、法令上は身体障がい者用車いすとなり、道路を走るときは歩行者として扱われます。
歩行者としての交通ルールやマナーを守ってください。車からは姿が見えにくいことにご留意ください。
- 加速時の急カーブ、急停止または高速での旋回はしないでください。
バランスを崩しやすく転倒するおそれがあります。
- 次のような場所では走行を避けてください。
 - ・交通量の多い道路 ・激しい凹凸のある道 ・ぬかるみ ・凍結路 ・エスカレーター
 - ・防止柵のない側溝や路肩付近など ・崖 ・川土手 ・海岸防波堤上 ・その他危険な場所
- 次のような場合は走行を避けてください。
 - ・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。雨天時は路面がすべりやすくなり危険です。
- 次のような場所は必要に応じて介助者が付き添い注意しながら使用してください。
 - ・狭い道 ・踏み切り ・横断歩道 ・駅のホーム ・エレベーター
 - ・車いす対応の福祉車両 ・その他危険が予想される場所
- 輸送する際は、専用の福祉車両を使用してください。
車いすに乗ったまま輸送する場合は、以下の要件を守ってください。
 - ・車に備え付けの3点式シートベルトを使用すること ・輸送中は車いすにヘッドサポートを取り付けること
 - ・当社へのご相談がないまま固定位置や構成パーツ、フレーム、部品を変更または交換しないこと ・車いすの部品がシートベルトの解除ボタンに触れていないか確認すること

⚠ 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- 使用者がひとりで走行する場合や介助者が同行する場合は、必ず使用者や介助者の適性を専門家の意見を参考に判断してください。
使用者や介助者の意見だけで判断すると、使用者や介助者、周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 操作に慣れるまで、平坦で安全な場所で介助者同伴のもと、走行の練習をしてください。
不慣れな状態で一般公道に出ると、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 洪水、火災、転落、衝突、交通事故などが発生した場合は、使用を中止してください。
このような非常事態は、検査では発見できないような重大な損傷につながるおそれがあります。
- お酒を飲んだり、眠くなる薬を飲んだ場合は運転をしないでください。
- 身体障がいのある方や薬を服用している方は、安全に操作できないおそれがあります。
身体上の制約や薬の服用については、医師にご相談ください。
- ティルト機能の使用中は、重心の位置が変わり、転倒するおそれがあります。
必ず最低速度で走行し、安全に操作できなくなるほど傾けることは絶対にしないでください。
- 踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。
斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる可能性があり大変危険です。必ず介助者と一緒に渡ってください。
- 重心のバランスが崩れると、転倒したり、車体が傾くおそれがあります。
バランスを崩す要因は以下の通り。
 - ・シートの角度 ・体の位置や体重のかけかた
 - ・スロープや盛り上がった地形での走行 ・荷物やアクセサリーの使用



警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 斜面で車輪ロックの解除はしないでください。
車いすが動き出さないよう、車輪ロックを解除する前に平らな場所に置いてください。
- 介助者がいない場合は車輪ロックを解除しないでください。
ケガにつながるおそれがあります。車いすに座っているときに、1人で車輪ロックを解除しないでください。
- ティルト角度を調整する際は、車体と座面の間に何も無いことを必ずご確認ください。
使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 本製品の改造や分解はしないでください。
強度や耐久性が低下したり、事故の原因となるおそれがあります。
- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。
事故の原因となります。調整が必要な場合は当社まで連絡してください。
- 走行プログラム設定を変更しないでください。
- 車いすから乗り降りしたり、電動操作部側のアームサポートを持ち上げる際は、電源がオンのまま行わないでください。
- 本製品を火気に近づけないでください。
エンブレискッションが燃えたり、プラスチックなどの変形や熱くなった金属部分でやけどをするおそれがあります。また、バッテリー収納部の発熱や破裂のおそれがあります。
- 車いす本体や車輪に異常がある状態で使用しないでください。
ただちに停止して主電源をオフにしてください。
走行中に車いすが壊れて、転倒や転落するおそれがあります。
- 本製品の使用者最大体重を守ってください。
- 車いすは1人乗り用です。2人以上で座って動かさないでください。
介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。
- 車いすでけん引をしないでください。
車いすが故障したり、ケガをするおそれがあります。
- 本製品を物品運搬用としてなど、車いす以外の目的で使用しないでください。
- 座面以外の部分に腰掛けしないでください。
- 混雑した場所で使用するときは、まわりに十分注意をしてください。
- 車いすのフレームやバックサポート、またはヘッドサポートなどに重い荷物を掛けて運転しないでください。
上り坂などで後ろに倒れやすくなり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。
段差の前でいったん停止してから正しい方法で乗り越えてください。
フレームおよびキャストなどが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。
- 発進するときや段差を乗り越えるときには、キャストが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャストが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。
- フットサポートは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。
低過ぎると路面の凹凸や障害物にフットサポートが当たり、転倒する危険があります。
- 無理にフットサポートに立ったり、直接体重をかけないでください。
フットサポートが破損したり、バランスをくずし、倒れるおそれがあります。
- 電動操作部の操作レバーに物を掛けしないでください。
操作の邪魔になったり、掛けているものの重さで手を離しても操作レバーが戻らなくなることがあります。
また、輪ゴムを掛けていると、輪ゴムが自走用操作部の中に入り込み、操作レバーが戻らなくなることがあります。
いずれの場合も車いすが止まらなくなるおそれがあります。



警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 狭い場所と斜面での全速走行は絶対にしないでください。
進行方向が変わってしまうような凸部のある路面を走行する際も十分に注意してください。
- 傾斜地・坂道での走行は特に注意してください。
傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすくなるなど大変危険です。
- 両側にエッジがないスロープでは走行しないでください。
スロープから落ちるおそれがあります。
- スロープを上る際は、斜めに走行しないでください。
転倒するおそれがあります。
- 雪や氷、ぬれた落ち葉で覆われた斜面や凹凸のある斜面を走行しないでください。
芝生、砂利、砂など凹凸のある斜面で走行する際は、十分に注意してください。
- 車いすでの走行中は、体を乗り出さないでください。
車いすが不安定になり危険です。
- 体が前のめりにならないよう注意してください。
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うなど体を前のめりにすると、車いすから落ちたり、車いすごと転倒しケガをするおそれがあります。
- 下記のような車いすに適さない服装で走行しないでください。
このような服装で運転すると、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
 - ・丈の長いマフラー ・袖口の広い服 ・裾の広いズボン・スカート
 - ・素足または下駄・サンダル履き、足にフィットしていない履き物など
- バックサポート、ヘッドサポート、アームサポートをつかんで持ち上げたり、移動させたりしないでください。
- 走行中に電源スイッチを切らないでください。
ブレーキがかかり急停止します。使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 走行中は必ず安全ベルトを使用してください。
- 携帯電話などを使うときには、安全な場所に停止して車いすの電源を切ってください。
事故の原因となるおそれがあります。
- 車いすの乗り降りは、必ず電源を切ってから平坦な場所で行ってください。
電源が入っていると、体が操作レバーにあたると車いすが動き出し、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。また、傾斜のある場所で車いすの乗り降りをする、バランスを崩しやすく車いすから落ちてケガをするおそれがあります。
- 電動操作部の電源をオンにしたまま車輪ロックを起動または解除しないでください。
車輪ロックを解除する際には、車いすが動き出さないよう平坦な場所にあることをご確認ください。
- アームサポートは電動操作部の電源をオンにしたまま上げたり、上げた状態で電源をオンにしないでください。
また、上げた状態では絶対に走行しないでください。
操作レバーが倒れ、不意に車いすが動き出したとき、アームサポートで体を支えることができず、使用者がバランスを崩し転倒するおそれがあります。
- 電源をオンにしたまま電動操作部を折りたたんだり、電動操作部を折りたたんだ状態で電源をオンにしないでください。また、電動操作部を折りたたんだ状態では絶対に走行しないでください。
操作レバーが不意に倒れて車いすが動き出し、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 搭載された電子装置は、携帯電話などからの外部の電磁波の影響を受けます。
電磁波を発しているため、ビルの警報装置など周辺環境に影響を与えるおそれがあります。
- バッテリー残量が僅かなときは、速やかに安全な場所に移動してください。
道路横断中など身動きが取れなくなるため大変危険です。
- バッテリーが完全に放電した場合は、できるだけ早く充電してください。
完全放電はバッテリー寿命を縮める要因になります。
- 充電の際は、必ず使用方法を守ってください。
バッテリーや充電器はまちがった取り扱いをすると、発熱・破裂や、感電、ケガの原因になります。
- 専用充電器以外のもので充電しないでください。
- バッテリー収納部や充電器を水に入れたり、直接水をかけたりしないでください。
- 浴室や雨などで濡れる場所で充電はしないでください。
- 充電器を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
壊れたり、発熱、破裂の原因となることがあります。

警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 壊れたり傷んだりした充電器は使用しないでください。
- 幼児やペットが近づくとくろでは充電をしないでください。
- 充電器は不安定な場所で使用しないでください。また、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。
- 屋外や燃えやすいものの近くで充電器を使用しないでください。
- 車いす側の差込口が汚れている状態や濡れている状態でプラグを差し込まないでください。ショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因になることがあります。
- 使用しない場合や保管中は、電動操作部の電源やバッテリー遮断器の主電源をオンにしたままにしないでください。
- バッテリー収納部や充電器からいつもはしない臭いがしたりするなど、今までとは異なることに気がついたときには、車いす走行や充電器の使用を停止し当社まで連絡してください。
- バッテリーの充電中は充電器の吸気口、排気口をふさがないでください。
- ステッカーは絶対に車いすからはがさないでください。ステッカーが見えにくくなった場合、またははがれた場合は、当社までご連絡ください。



バッテリー遮断器



車輪ロック



固定位置

注意

【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

- 使用する前には各部を点検してください。
車いすは“動くもの”ですから、長時間の使用により劣化が生じます。
使用する前には必ず点検をし、異常が見つかったらただちに使用を中止してください。
- 車いすを落としたりたたいたりして、衝撃を加えないでください。
- 走行中は、足を必ずフットサポートの上のせてください。
足を地面に着けたままで走行したり、フットサポートから下ろして走行すると、フットサポートと地面の間に足が巻き込まれてケガをするおそれがあり大変危険です。
- 乗り降りの際に、電動操作部の操作レバーを支えとして使用しないでください。
- 乗り降りの際には電動操作部に体重をかけないでください。
破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- 靴を履かずに足をフットサポートにのせて使用する場合は十分注意してください。
壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちて骨折するなど、大変危険です。
- 壁やドアなど硬いものにぶつかった際は、損傷していないことを確認してから、再度走行してください。
- アームサポートを跳ね上げた状態から下げるとき、手や衣服を挟み込まないよう注意してください。
- エレベティング式フット・レッグサポートの振り上げ作業を行う際は、負荷をかけないでください。
- 後進時、人や物にぶつからないように注意してください。
- バッテリー遮断器の主電源をオフにする前に、電動操作部の電源を必ずオフにしてください。
- 電源コードを引っ張って抜かないでください。
断線の原因になります。
- バッテリーや車いすを、高温になる場所や直射日光があたる場所に置かないでください。
故障したり、バッテリーの劣化が早く進む原因になります。
- バッテリーのヒューズが切れた場合、ご自身で交換せず当社まで連絡してください。
ヒューズが切れた原因を取り除かずにヒューズを交換すると、ふたたびヒューズが切れたり、本体ユニットが故障したりするおそれがあります。

2 製品の特長

- 走行性、小回り性に優れた6輪駆動の電動車いすです。
- 電動のティルト機能により座り姿勢や、走行中の姿勢をご自身で調整できます。
- 走行中の振動を吸収する高機能なサスペンションを採用。快適な走行性と乗り心地を実現。
- スーパーやコンビニの狭い通路でも小回りがきき、操作しやすい中輪駆動です。

3 各部の名称



〔電動操作部〕



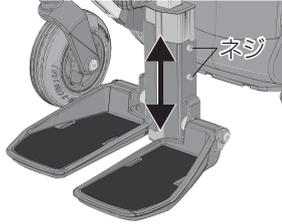
4 適合調整

フット・レッグサポートの調整のしかた

フットサポートの高さ調整

使用者の体に合わせて、フットサポートの高さを左右別々に調整することができます。

- ① フットサポートの高さを固定しているネジ2ヶ所をゆるめます。
- ② 適当な高さに合わせた後、ネジ2ヶ所を締めて固定します。



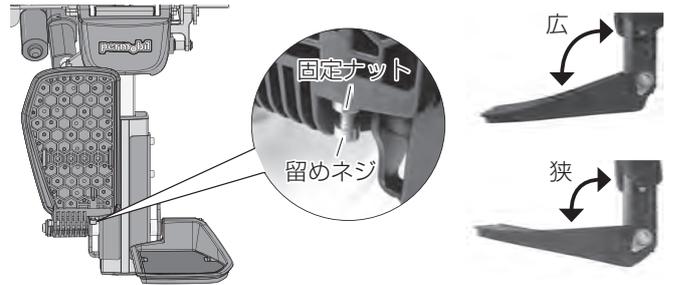
△注意

フットサポートの高さは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。低過ぎると路面の凹凸や障害物にフットサポートが当たり、転倒する危険があります。

フットサポートの角度調整

使用者の体に合わせて、フットサポートの角度を左右別々に調整することができます。

- ① フットサポートを跳ね上げます。
- ② 固定ナットをゆるめます。
- ③ 留めネジを調整し、適当な角度に合わせた後、固定ナットを締めて留めネジを固定します。



レッグサポートの高さ調整

使用者の体に合わせて、レッグサポートの高さを左右別々に調整することができます。

- ① レッグサポートの高さを固定しているネジをゆるめます。
- ② レッグサポートを上下にスライドさせて適当な高さに合わせた後、ネジを締めて固定します。



レッグサポートの角度調整

使用者の体に合わせて、レッグサポートの角度を左右別々に調整をすることができます。

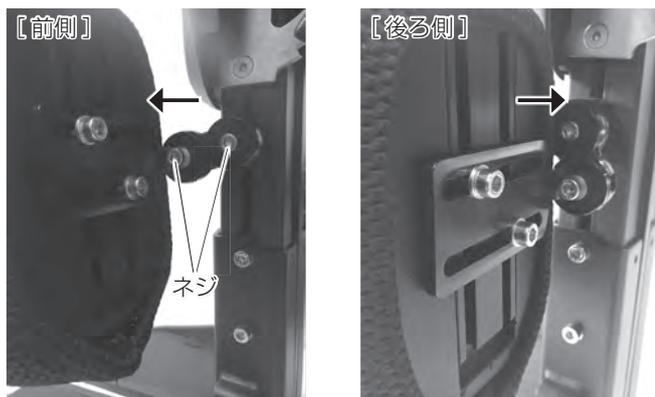
- ① レッグサポートの角度を固定しているネジをゆるめます。
- ② レッグサポートの角度を動かし適当な角度に合わせた後、ネジを締めて固定します。



レッグサポートの奥行き調整

使用者の体に合わせて、レッグサポートの奥行きを左右別々に調整することができます。

- ① レッグサポートの高さと角度を調整するネジをゆるめます。
- ② ネジで固定している金具を回転させて奥行きを調整します。
- ③ 適当な奥行きに合わせた後、各ネジを締めて固定します。



レッグサポートの縦横の位置調整

使用者の体に合わせて、レッグサポートの位置を縦や横に左右別々に調整することができます。

【縦向き⇒横向き】

- ① レッグサポート裏面のネジ2ヶ所をゆるめて取り外し、レッグサポートを取り外します。
- ② レッグサポートを横向きにして、ネジ2ヶ所を戻し締めて固定します。

【縦向き⇒斜め】

- ① レッグサポート裏面のネジ2ヶ所をゆるめます。
- ② レッグサポートを傾けてネジ2ヶ所を戻し締めて固定します。



アームサポートの調整のしかた

アームサポートの高さ・角度調整

使用者の体に合わせて、アームサポートの高さを25.5～36cm（無段階）に調整することができます。

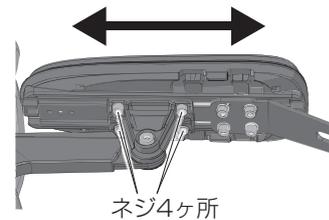
- ① ネジAをゆるめます。
- ② ◎印をめやすにひじまでの高さを合わせた後、ネジAを仮固定します。
- ③ ネジBをゆるめます。
- ④ アームサポートの角度を調整しネジBを仮固定します。
- ⑤ 左右の高さを合わせてネジAとBを本締めして固定します。



アームサポートの前後の位置調整

使用者の体に合わせて、アームサポートの前後の位置を調整することができます。

- ① アームサポート裏面のネジ4ヶ所をゆるめます。
- ② アームサポートを前後にスライドさせて調整します。
- ③ 適当な位置に合わせて後、ネジ4ヶ所を締めて固定します。

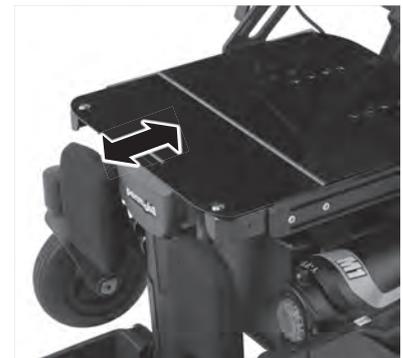
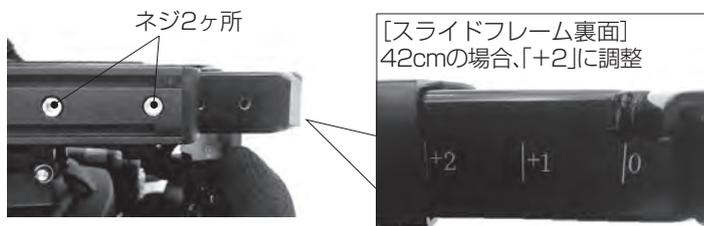


座面の奥行き調整のしかた

使用者の体に合わせて、座面の奥行きを38～42cm（3段階、2cm刻み）に調整できます。

標準仕様の座奥行きは40cmです。座奥行きを変更する場合は、サイズの合うクッションを選んでください。

- ① 座面の側面にあるネジ2ヶ所（左右）をゆるめて取り外します。
- ② 座面を前後にスライドさせて調整し位置を決めます。
- ③ ネジ穴に合わせてスライドの位置を微調整しネジを差し込みます。
- ④ ネジ2ヶ所（左右）を締めて固定します。



座面の高さの調整について

使用者の体に合わせて、座面の高さを41～46cm（3段階、2.5cm刻み）に調整できます。

標準仕様の座面高さは41cmです。※座面高さの調整を希望する場合は当社まで連絡してください

リクライニング角度の調整のしかた

使用者の体に合わせて、リクライニング角度を85～110度（無段階）に調整できます。

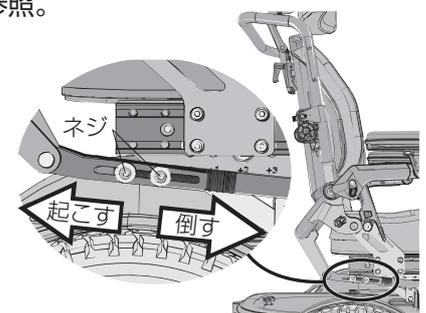
バックサポート リリーフの角度調整と合わせて調整してください。

「P11 アクトモア バックサポート リリーフの調整のしかた 角度の調整」を参照。

- ① ネジをゆるめる前に、バックサポートが動かないように押さえてください。
- ② ネジ2ヶ所をゆるめて調整しバックサポートの角度を決めます。
- ③ ネジ2ヶ所を締めて固定します。

⚠ 警告

角度の調整中にバックサポートに負荷をかけないでください。
バックサポートが突然倒れて体に当たりケガをするおそれがあります。



電動操作部の調整のしかた

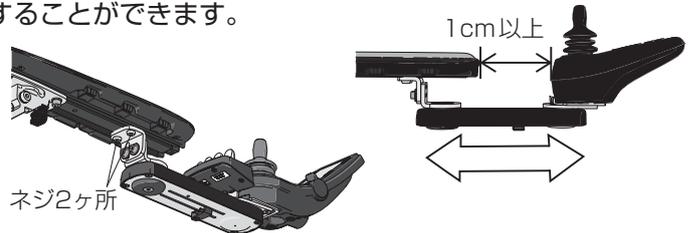
電動操作部の左右入替

電動操作部は左右どちらのアームサポートにも付け替えることができます。
標準仕様は右側です。※左側仕様を希望する場合は当社まで連絡してください

電動操作部の前後の位置調整

使用者の体に合わせて、電動操作部の前後の位置を調整することができます。

- ① アームサポート裏面にあるネジ2ヶ所をゆるめます。
- ② 電動操作部を前後にスライドさせて調整します。
- ③ 適当な位置に合わせた後、ネジ2ヶ所を締めて固定します。



△注意

アームサポート先端までの距離は最低1cm以上開けてください。

操作レバーの交換（オプション）

使用者の体に合わせて、操作レバーを交換できます。交換する場合は当社まで連絡してください

ラバードーム型
棒状だとうまく握れないかた

ハンドルU字（大）型
握力がなく、手を乗せて操作をするかた

スティック型
握ることはできるが力の弱いかた



杖ホルダー／ポンベホルダー（オプション）

- アクトモアM1へ、杖や酸素ボンベ（直径11cmまで）をのせられます。
- 杖や酸素ボンベの長さにあわせて、高さを40cmの範囲で調整できます。

杖ホルダー



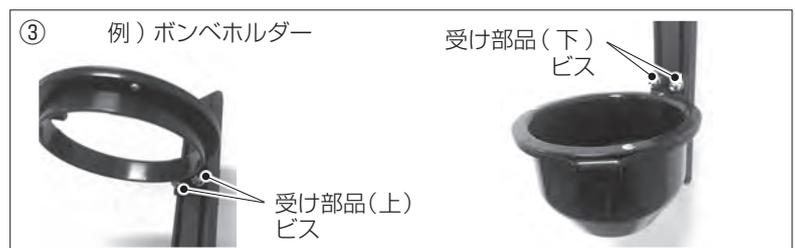
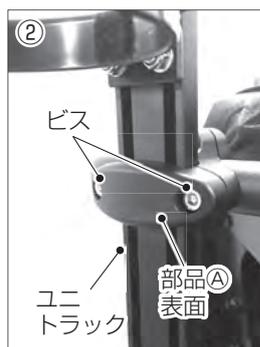
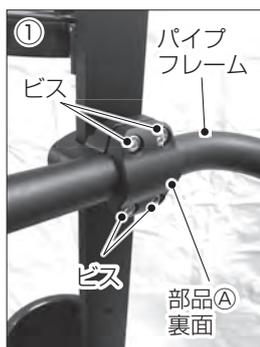
ポンベホルダー



杖ホルダー／ポンベホルダーの取り付け調整のしかた

- ① 車いすのパイプフレームへ部品Aを取り付けます。部品Aの裏面からビス4本を締めて固定します。
- ② 固定した部品Aへユニットトラックを差し込み、部品Aの表面にあるビス2本を締めて固定します。
- ③ 使用する杖やボンベの長さ合わせて長さを調整します。

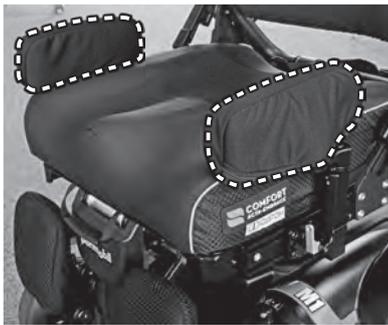
杖ホルダーまたはポンベホルダーの受け部品（上・下）のビスをゆるめ、高さを決めて固定します。



△注意

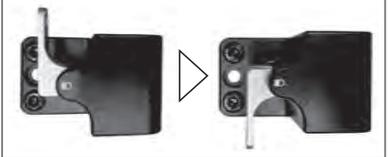
- 電動ティルト機能を使用したときに、車いす本体に干渉しないように注意してください。
- 廻りに干渉しないか十分注意してから使用してください。

太ももサポート（左右一組）



- 太ももが外転しないように側方からサポートします。骨盤が後傾しやすい方、太ももが外側に開いてしまう方の姿勢保持にオススメです。
- 体に接するパットの表面はやわらかいウレタン素材で、高さ・角度の調整ができるため、身体状況に合わせて調整ができます。
- 移乗時など、太ももサポートが干渉する場合は、取り外すことができます。受け金具のレバーの向きも下側に変えられます。

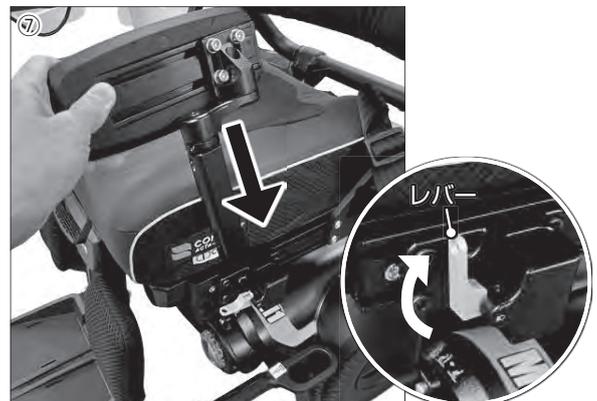
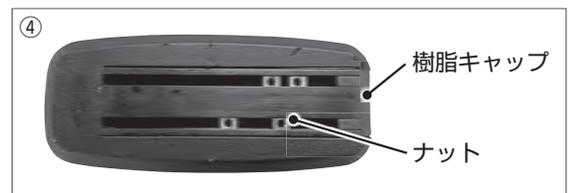
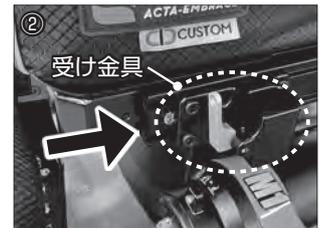
受け金具レバーの向き



取り付けかた

アクトモアM1の側面フレームに本製品を取り付けます。

- ① 側面フレーム前方にある樹脂キャップを取り外します。
- ② 本製品の受け金具を横からスライドさせてボルトを仮止めし樹脂キャップを戻します。
- ③ 中材パット裏側にある樹脂キャップを外します。
- ④ 中材パット裏側のスリット部に、右記のようにナットを差し込んでから樹脂キャップを戻します。
- ⑤ 差込金具を中材パットに取り付けます。差込金具にワッシャーを装着したボルトを入れて準備します。
- ⑥ 中材パット裏面に差込金具を取り付けボルトを仮止めします。
- ⑦ 受け金具へ差込金具を入れてレバーを上げて固定します。
- ⑧ 反対側も同様に上記①～⑦の手順で取り付けます。



調整のしかた

- 本製品のパット部を身体状況に合わせた位置に調整ができます。調整後は、ボルトを確実に締めて固定してください。

【前後調整】

パット裏面のボルト4本をゆるめて、前後位置の調整を行います。角度調整①②のボルト⑧⑨をゆるめ、それぞれ180度回転させることで、さらに前方の位置に調整することも可能です。

【高さ調整】

差込金具のボルト④をゆるめ、高さを調整します。

※ボルト④は前後2か所あります。必ず2か所のボルトを調整してください

【角度調整】

角度調整は2か所の軸を調整することができます。差込金具のボルト⑧⑨をゆるめ角度を調整します。



- 最後にパット部へカバーを取り付けます。※差込金具があるため、カバーのチャックは完全に閉じることはできません

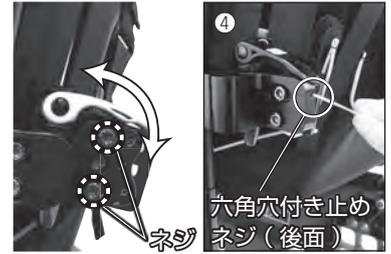
アクトモア バックサポート リリースの調整のしかた

使用者の体に合わせて、本体の位置調整（前後・上下・角度）や背もたれの張り調整ができます。

角度の調整

バックサポートの角度は受け金具を軸にして110度まで倒す調整ができます。

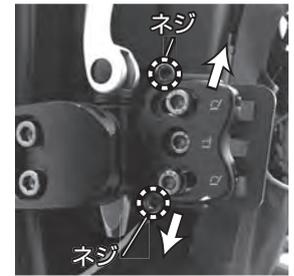
- ① 調整金具の側面にあるネジ（2ヶ所）を六角棒スパナでゆるめます。
- ② 使用者の体に合わせて調整し、角度を決めてください。
- ③ 角度が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。
- ④ 角度が変わらないように六角穴付き止めネジ（後面）を六角棒スパナで締めます。



上下の調整

バックサポートの高さは上下7.5cmの調整ができます。

- ① 本体フレームの左右にあるネジ（2ヶ所）を六角棒スパナでゆるめ、本体を上下に動かし高さを調整します。
- ② 使用者の体に合わせて調整し、高さを決めてください。
- ③ 高さが決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



奥行きの前後位置の調整

受け金具の取り付けかたによって、奥行きは最大13.5cmの前後調整が可能です。

- ① 調整金具側面にあるネジ（1ヶ所）を六角棒スパナでゆるめ、本体を前後に動かし奥行きを調整します。
- ② 使用者の体に合わせて調整し、奥行きの位置を決めてください。
- ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



【車いすの座面の奥行きを短かく調整したい場合】

受け金具の取り付けは、車いすの背パイプの前方になるように取り付けます。



奥行き調整のネジを内側に付け替えることで、奥行きの調整がしやすくなります。

- ① 調整金具の側面にあるネジ（1ヶ所）を六角棒スパナで取り外します。
- ② 取り外したネジを内側から差し込み固定します。



背張りの調整

- ① 本体の裏面にあるカバーベルトを外しカバーをめくります。
- ② 背張り調整部のワイヤーシステムがロックされていることを確認してください。
- ③ ワイヤーシステムのダイヤル部を時計回りに回すと背の張りを締めることができます。全3ヶ所のワイヤーシステムを身体状況に合わせ、背の張り調整ができます。

※空回りする場合は、ワイヤーシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでください

- ④ 背の張りをゆるめるときは、ワイヤーシステムのダイヤル部を深くつまみ、親指で浮かせるようにロックを外してください。再度背の張りを調整する場合は、ワイヤーシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでからダイヤルを回してください。



アクトモア ヘッドサポートの調整のしかた

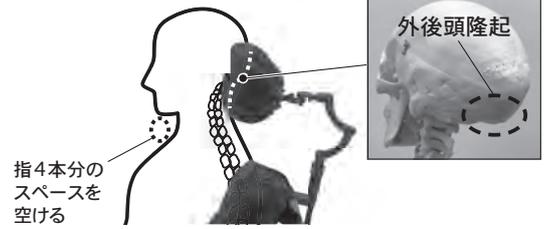
頭部の位置に合わせて、上下・前後・回転、ヘッドサポート部の左右角度の調整ができます。

ポイント

- 外後頭隆起の下部からサポートするようにヘッドサポートを調整します。
- 頭部の位置は、あごの下に指4本分（軽くうなずく程度）をめやすにすると、食事が摂りやすい角度になります。

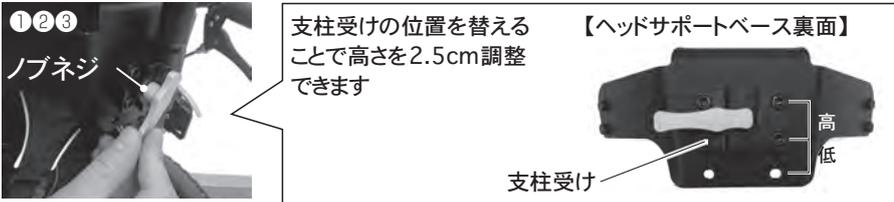
△注意 フレームのすき間に指や手を挟まないように注意してください。

外後頭隆起を下からサポート



高さの調整

- ① 支柱受けにあるノブネジをゆるめます。
 - ② 頭部の位置にあわせてヘッドサポートの高さを調整します。
 - ③ 調整が終わったら、ノブネジをしっかりと締めて固定します。
- 本製品を抜き差しするとき、高さ固定金具により一度決めた位置で固定できます。
- ④ 高さ固定金具を六角棒スパナでゆるめます。
 - ⑤ 支柱受けに当たるところまでスライドさせてください。
 - ⑥ 高さ固定金具のネジを確実に締めて固定します。



頭部の回転調整

- ① 頭部の回転調整ネジ3ヶ所を六角棒スパナでゆるめます。
- ② 頭部の位置にあわせて角度を調整します。
- ③ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。

回転：360度



上下：80度



左右：45度



ヘッドサポート部の左右の角度調整

- ① ヘッドサポートの裏にあるファスナーを空けてカバーをめくります。
- ② 左右2ヶ所の調整ネジを六角棒スパナでゆるめます。
- ③ 頭部の位置に合わせて角度を調整します。
- ④ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。

左右それぞれ10度ずつ
10段階に調整可能



前後左右の回転調整

- ① 5ヶ所の調整ネジを六角棒スパナでゆるめます。
- ② 頭部の位置にあわせて前後左右の位置を調整します。
- ③ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。



左側からサポート



右側からサポート



前方でサポート



後方でサポート



走行プログラム設定

使いかたに合わせて、機能や特性の設定を変更することができます。この変更は「走行プログラム設定」を変えることによって行います。走行プログラム設定の変更は当社に連絡してください。

- ・ 最高速度の制限調整
- ・ 加速の制限調整
- ・ 回転の加速、速度（直進性の向上）の調整
- ・ オートパワーオフ設定（0～30分）
- ・ 操作レバーの感度調整

5 使用前の準備と点検

車いすの点検

点検して異常が見つかったときには当社に連絡してください。

駆動輪

- タイヤ溝があること。
- タイヤ表面に亀裂が入っていないこと。

フットサポートの高さ

- フットサポートは地上面より屋内は3cm以上、屋外は5cm以上、上げた状態になっていること。

3~5cm以上



駆動輪のゆるみ

- 駆動輪にガタつきがないこと。

電動操作部

- 電動操作部が車いすにしっかり固定されていること。
- 操作レバーが扱いやすい位置にあること。

車輪ロック

- 車輪ロックの解除が正常にできること。

安全ベルト

- 安全ベルトの固定ができること。

キャスト

- キャスタのネジがゆるんでいないこと。
- キャスタに溝があること。
- キャスタに傷がないこと。
- キャスタフォークに亀裂がないこと。

ホイール、スポーク

- ホイールに変形や傷がないこと。
- ホイールやフレームとの取り付け部にガタつきがないこと。
- スポークが折れていないこと。

全体の確認

- ガタつきがないこと。
- まっすぐに走ること。
- バックサポートやヘッドサポートの金具がしっかりと固定されていること。
- ワイヤーが部品などに引っかかかっていないこと。

服装のチェック

服装が車いすの走行に適したものかどうかを確認します。

△ 注意 下記のような車いすに適さない服装で走行しないでください。
このような服装で運転すると使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。

丈の長いマフラー

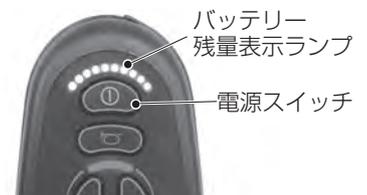
袖口の広い服

裾の広いズボン・スカート

素足または下駄・サンダル履き、足にフィットしていない履き物など

バッテリーの残量確認のしかた

電動操作部の電源をオンにするとバッテリー残量表示ランプにバッテリー残量が10段階のランプで示されます。残量がない場合には、充電方法にしたがってバッテリーを充電してください。



6 走行診断チェック

使用者の身体状況によっては、ひとりで走行することが危険な場合があります。
この診断チェックを利用していただき、ひとりで走行できるかどうかの判断の目安にしてください。

チェック

(1) 電動操作部の操作レバーやスイッチを自分の意思どおりに動かすことができますか？

(2) 周囲の状況を正しく理解し走行すべきか気にかけることができますか？

両方とも
できる

いずれかに
不安がある

本製品の使用は避けてください。

ひとりで走行することは可能です。安全のために慎重な走行を心掛けてください。P17「外出時の注意点」にあるような場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して走行してください。

7 基本操作の練習

基本操作 1

平坦な広い場所で基本操作の練習を行ってください。

- はじめに速度を低速に調整してから操作レバーの使い方を覚えてください。
 - 進みたい方向に操作レバーを倒します。
 - ゆっくり走るときは浅めに操作レバーを倒します。
 - 速く走るときは深めに操作レバーを倒します。
 - 停止するには、操作レバーから手を離し元の位置に戻してください。操作レバーは、ゆっくりと動かしてください。
- 操作レバーの操作感覚を覚えたら以下のような走り方をしてみましょう。
 - 前進・停止
 - 後進
 - 後進時の特性を理解しましょう。
 - 後ろの安全を確認しましょう。
 - 旋回
 - 狭い場所で旋回できるようになりましょう。
 - 左右方向に回ってみましょう。
 - S字クランク走行
 - 思いどおりのコースを通れるようになりましょう。
 - 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。
 - 障害物回避
 - 回避動作ができるようになりましょう。
 - 障害物にぶつからないように停止してみましょう。

3) 速度を徐々に上げて同じ練習を行ってください。

基本操作 2

実際に車いすを使う場所で練習を行ってください。

- 歩道
 - 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。
 - 路面に応じた走行を覚えましょう。
- 段差の上り下り
 - 段差の高さが4.8cm以下であることを確認しましょう。
 - 段差に対して直角に通過できるように進みましょう。
 - 手前でいったん停止し、慎重に進みましょう。
- 横断歩道
 - 余裕をもって横断歩道を渡りましょう。
 - 車道／歩道の段差に注意しましょう。
- 坂道
 - 上り下りの感触を覚えましょう。
 - 上り坂での再発進は慎重にしましょう。
- 自動ドア
 - 定位置でいったん停止する練習をしましょう。

⚠ 注意

日常、車いすをよく使う場所の路面を必ず確認してください。大きな段差、急な坂道、荒れた路面など危険な場所を通らないルートを走行するようにしてください。

8 ご使用方法

アームサポートの使いかた

跳ね上げるとき

アームサポートをつかんで跳ね上げるように持ち上げます。

跳ね上げを戻すとき

アームサポートが止まる位置まで下ろします。

警告 アームサポートを跳ね上げたり戻す際は、必ず電動操作部の電源をオフにした状態で行ってください。

注意

- アームサポートを跳ね上げたままの状態で使用しないでください。
- アームサポートの跳ね上げは、必ず最後まで後ろに跳ね上げてください。
- アームサポートを跳ね上げたり、戻す際には、フレームとのすき間などで手や衣服を挟まないように注意してください。



エレベータ式フット・レッグサポートの使いかた

使用者の身体状況に合わせて、フット・レッグサポートの角度を87.5～135度（10段階）に調整できます。

- ① 固定レバーを引き、フット・レッグサポートの角度固定を解放します。
- ② 固定レバーを引いたまま、調整し角度を決めます。
- ③ 固定レバーを離します。角度が固定されているか確認してください。

警告

- フット・レッグサポートの角度を調整する際は可動部分に指などを挟まないよう気をつけてください。
- 角度の調整中にフット・レッグサポートに負荷をかけないでください。



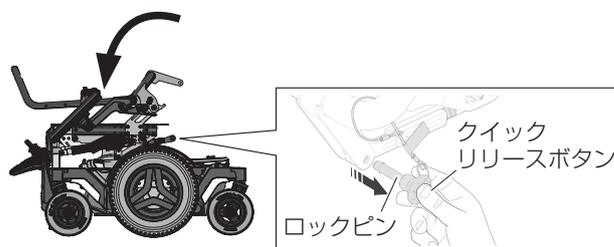
折りたたみかた

本製品を輸送する場合や保管する場合にバックサポートを折りたたみコンパクトにすることができます。

- ① ロックピンのクイックリリースボタンを押します。
- ② バックサポートが倒れないように押さえて、ロックピンを引き抜きます。
- ③ バックサポートを前に折りたたみます。その際、ケーブルが引っ張られたり、はさみ込まれていないことを確認してください。

警告

- バックサポートを折りたたむ際は、可動部分に気をつけてください。
- 角度の調整中にバックサポートに負荷をかけないでください。



安全ベルトの使いかた

走行時は必ず安全ベルトを装着してください。

- 装着するときは、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 外すときは、赤いボタンを押して解除してください。



ボタン

電動操作部の折りたたみかた

電動操作部を折りたたむため、テーブルに近づくことができます。

- 電動操作部をつかみ、右後方に引くと格納します。（右手使用の場合）
- テーブルから離れて走行する際は、必ず元に戻してください。



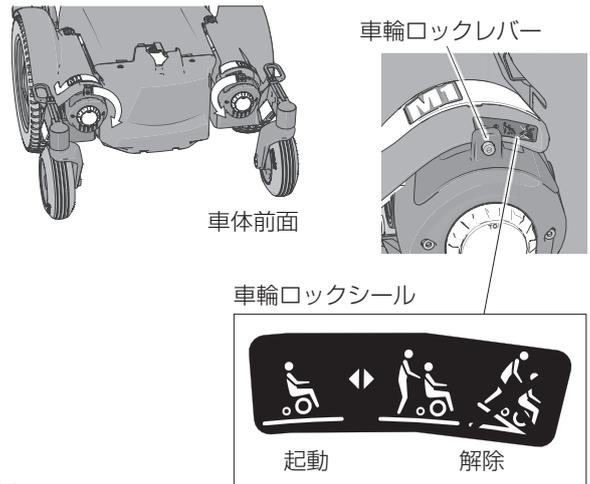
車輪ロックの使いかた

車輪ロックの解除を行なうと、介助者が車いすを押して動かすことができます。

車輪ロックの解除

- ① 電動操作部の電源をオフにします。
- ② 2ヶ所の車輪ロックを解除します。車いすを前面から見て、車輪ロックの左側のレバーは時計回りに、右側のレバーは反時計回りに回し切ります。

- ⚠ 警告**
- 車輪ロックを解除すると電動走行はできません。
 - 解除するときは平坦な場所で行なってください。
 - 車輪ロックを解除し車いすを押す介助者が、車いすを制御できることを必ず確認してください。
 - 車輪ロックを解除して車いすを押した後は、必ず車輪ロックを戻し、起動させてください。



車輪ロックの起動

- ① 電動操作部の電源がオフになっていることを確認してください。
- ② 2ヶ所の車輪ロックを起動します。車いすを前面から見て、車輪ロックの左側のレバーは反時計回りに、右側のレバーは時計回りに回し切って戻します。

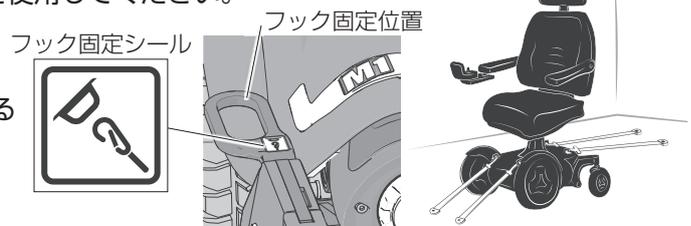
- ⚠ 警告** 電源をオンにしたまま車輪ロックを起動しないでください。

自動車での輸送方法

車いすに乗ったまま自動車で輸送する際は、福祉車両を使用してください。

以下のことを確認してください。

- 車輪ロックがかかっていること。
- 黄色のステッカーで示された車両のフックを固定するリング4ヶ所に、本製品の車体がしっかりと固定されていること。
- ヘッドサポートがついていること。
- 車両の3点式のシートベルトを着用し、本製品の一部がシートベルトの解除ボタンに干渉しないこと。
- 本製品の安全ベルトを装着していること。



利用者は自動車のシートに移り、自動車にあらかじめ装備されている3点シートベルトの使用を推奨します。

移乗のしかた

- ① 電動操作部の電源をオフにします。
- ② フット・レッグサポートのエレベティング角度を直角に戻し、フットサポートを両方とも上げます。
- ③ 乗り移る側のアームサポートを跳ね上げます。

使用者の身体状況によって移乗方法が異なります。下記の方法を参考に正しい移乗方法で行ってください。

1人で車いすに乗り移るとき

- ④ 車いすをしっかり保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ⑤ アームサポートを元に戻してください。
- ⑥ フットサポートを下ろして両足をのせます。

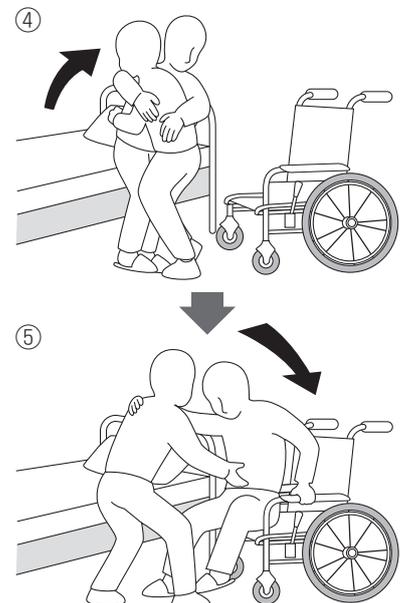
介助者と車いすに乗り移るとき

- ④ 介助者が身体状況に応じた方法で立ち上がらせます。
- ⑤ 車いすの方へおしりを向け、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
- ⑥ アームサポートを元に戻してください。
- ⑦ フットサポートを下ろして両足をのせます。

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ⚠ 警告** 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず電源オフにしてください。

- ⚠ 注意** アームサポートやフットサポートを戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。



外出時の注意点

- お使いいただく環境や場所によっては、必要に応じて介助者の同行が必要な場合があります。単独走行では、ケガをするおそれがあります。
- また、日常よく使う場所に次のような危険がないかどうかを確認して、もし危険がある場合には、このような箇所を通らないルートを選ぶようにしてください。
- 緊急時は、介助者や周りの方に車輪ロックを解除し電動走行オフにして押してもらい安全な場所に移動してください。

踏切や路面電車の線路を渡るとき

線路のすき間にキャストがはまるおそれがあります。

柵がない歩道

車道側に落ちるおそれがあります。

側溝や下水溝のフタ

すき間がある場合、タイヤが落ちるおそれがあります。

砂利道や泥道

タイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。

車体が左右に大きく傾く場所

横に倒れるおそれがあります。

雪・水溜りのある道路

スリップしてコントロールができなくなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。駆動部が水に浸かると停止するおそれがあります。

不慣れな道路の横断

- ・ 特に信号機のない横断歩道では、交通状況に十分注意して渡ってください。
- ・ 信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。このような場所では、信号が次の青になるまで待って、余裕を持って渡るようにしてください。
- ・ 狭い車道を走ることは大変危険です。できるだけ安全な道を選んでください。
- ・ バッテリー残量が少ない場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。横断前にバッテリー残量を確認してください。

夜間の走行

路面状態がわからず転倒したり、周りの人や車から認識されずに人や車と衝突するおそれがあります。

大きなくぼみを越えるとき

道路にくぼみがある場合は回避してください。そのまま走行すると転倒するおそれがあります。

不慣れな坂道の上下

駅のプラットフォーム

線路に転落するおそれがあります。

リフト付車両への乗降

混雑した場所での移乗

人や物にぶつかるおそれがあります。周りの人の手や腕が電動操作部に接触して不意に発進するおそれがあります。

大きな段差や障害物の上下

バランスを崩しやすく、転倒するおそれがあります。

坂道や段差の下り

前進で下りると乗っている使用者が前のめりになり車いすから落ちるおそれがあります。必ず安全ベルトを着用してください。

航空機に乗るとき

航空機に乗ることが決まったら、電動車いすを使用することを事前に航空会社に連絡し、航空会社の指示に従ってください。このときにご使用の車いすについて詳しく航空会社に知らせてください。特に使用するバッテリーについては、以下の仕様を参照してください。

■ シールドバッテリー

電圧 25V

種類 防漏型鉛蓄電池（ゲルタイプ）

バッテリーは、航空機への機内持込・荷物としての預け入れが制限されることがあります。必ず事前に航空会社へ相談してください。

※ 旅行などの一時的な場合も含め、本製品を海外で使用する場合は、サービスサポートの対象外とさせていただきます

9 操作方法

車いすに座る

- ① 車いすを平坦な場所に置き、電動操作部の電源をオフにします。
 - ② 車いすに乗り移り、車いすから落ちないようにしっかり座ります。
 - ③ 安全ベルトを装着します。
- 車いすに乗り移るときやテーブルを使用するときなど電動操作部が邪魔になる場合には、折りたたむことができます。(P15 電動操作部の折りたたみかた)
 - アームサポートを跳ね上げると、腰を大きく上げることなく車いすに乗り移ることができます。

車いすを動かす

- ① 電動操作部の電源をオンにします。
電源を入れると、バッテリー残量表示のランプが点灯します。
- ② 必要な場合は速度の調整をします。
調整方法は、次項を参照してください。
- ③ 操作レバーを移動したい方向に倒すと走り出します。
最初に操作レバーを前後左右に少しだけ倒して車いすが正しく動くことを確認してください。
はじめての方は、P14を参照して、慣れるまで基本操作の練習をしてください。

ティルト角度の調整方法

- ① 電動操作部の電源をオンにします。
- ② ティルト角度ボタンを押すとティルト角度表示ランプが点灯します。
- ③ 操作レバーを手前に倒すとティルト角度が倒れます。戻りたいときは、操作レバーを前に倒してください。

ティルト角度を20度以上倒して電動走行をすると、安全のため約半分のスピードに制御します。



電動操作部の速度調整・確認方法

- 速度制御ボタンで速度の調整や速度設定の確認ができます。
速度の調整は次の手順で行ってください。

速度制御ボタンを押し速度を変更します。

電動操作部の速度表示ランプでは常時、速度を確認することができます。

右側の加速ボタンを1回押すと、速度表示ランプが高速側へ1段階上がります。

くり返し押すと、連続して表示が高速側へ上がります。

速度を下げる場合は、左側の減速ボタンを押します。



走行中のバッテリー残量確認

走行中は、電動操作部のバッテリー残量表示ランプでいつでもバッテリー残量を確認することができます。



その他の機能

● 警笛（ホーン）を使う

電動操作部のクラクションボタンを押すと、警笛（ホーン）が鳴ります。

● オートパワーオフ機能

電源を入れた状態で操作レバーを30分間操作しないと、自動的に電源が切れます。（初期設定）
続けて走行する場合は一度電動操作部の電源をオフにして、1秒以上経過してから再度電源を入れなおしてください。

● バッテリー遮断器

電動操作部の誤作動を防ぐことができます。
バッテリー遮断器で主電源をオフにする前に、必ず電動操作部の電源はオフにしてください。

● 電源ロック

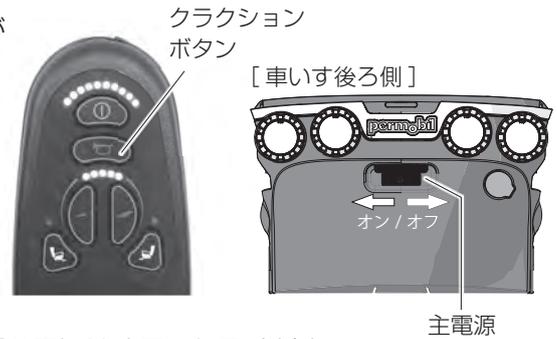
手元の操作パネルで、電源が入らないようにロックをかける設定ができます。

【電源をロック】

- ① 操作パネルの電源ボタンをオンにします。再度電源ボタンを押して音が鳴るまで長押しします。
- ② 操作レバーを前に倒します。
- ③ 操作レバーを後ろに倒します。
音が短くなった後、ピーと音が長く鳴り電源はロックされます。

【電源のロックを戻す】

- ① 操作パネルの電源ボタンを押します。
- ② 操作レバーを前に倒してから、後ろに倒します。音が鳴り電源ロックは解除されます。



車いすから降りる

必ず平坦な場所に停車してください。電源を切って降りてください。

10 バッテリーのご使用方法

バッテリーの特長

- 1回の充電で約25km走行が可能な大容量バッテリーです。
- メモリー効果が起きにくいので、リフレッシュ充電は不要で、継ぎ足し充電をすることが可能です。

バッテリーの特性と取り扱い

● 温度環境

温度環境によっては、走行できる距離が短くなる場合があります。

● バッテリーの充電表示機能

電動操作部のバッテリー残量表示ランプが1つになった場合は、ただちに充電してください。
充電が終わったあとで、電動操作部のバッテリー残量表示ランプで充電できた量を確認することができます。
充電完了後、全てのランプがつかないときは、以下の原因が考えられます。

- ・充電中にバッテリーの温度が上がって保護のために充電が中断した。
- ・劣化が進んで容量が減少してきている。

● バッテリーの劣化について

バッテリーは消耗品です。バッテリーは使うことによって、また時間が経過することによっても徐々に劣化し、容量は減少します。劣化によって容量が減少する度合いは、使用条件によって異なります。
※ 未使用であっても長期間保存した場合は、バッテリーは劣化し容量は減少します

⚠ 注意

- 早期に劣化の表示がされた場合は、当社にご連絡ください。
- 充電中に充電器の温度が上がると、冷却ファンが自動的に作動します。充電中は吸気口、排気口をふさがしないでください。

バッテリーの充電方法

- ① 充電の準備をします。室内の平坦な場所に車いすを置きます。
- ② 電動操作部の電源をオフにします。
- ③ 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。充電器の充電ランプは赤色になり充電待機状態となります。
- ④ 充電器の充電プラグを電動操作部下の充電ソケットに差し込みます。充電器の充電ランプが橙色に点灯することを確認します。
- ⑤ 充電中はバッテリーの充電状況を表示ランプで確認することができます。充電が終わると表示ランプは緑色に点灯します。バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、充電完了までの時間は8~12時間前後です。
- ⑥ 充電完了後、充電プラグおよび電源コードをコンセントから抜きます。



充電ランプの表示と内容

- 橙色の点灯
通常充電中です。
充電が終わると充電ランプは緑色に点灯します。
- 赤色の点灯
充電待機中です。
- 緑色の点灯
充電完了です。
- 赤色の点滅
充電器またはバッテリーの異常を検出したため充電できません。いったん充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。再び充電ランプが赤色に点滅する場合は機器の故障が考えられます。充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、当社にご連絡ください。



⚠ 警告

- バッテリーや充電器はまちがった取り扱いをすると、発熱、破裂、感電、ケガの原因になります。

11 保守・点検

日常のお手入れ

- 使用する前には必ずP13「使用前の準備と点検」を確認し、常に安全な状態で使用してください。
- 車いすは湿気に弱いので、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- エンブレイスクッションが汚れたときには、水で濡らし強く絞った布などですぐにふき取ってください。
- 駆動輪やキャストなどがひどく汚れた場合は、薄めた中性洗剤とブラシで汚れを落としてから常圧の水道水をやさしくかけてください。作業が終了後ただちに雑巾などで水分をふき取って乾燥させてください。

- ⚠ 注意 ● 駆動輪やキャスト以外に直接水をかけないでください。
- 高圧洗浄機やスチーム洗浄機で車いすを洗浄しないでください。

保管方法

車いすは直射日光が当たる所、高温になる所、雨に濡れる所、湿気の多い所を避けて保管してください。長期間使用しないときはバッテリーを満充電（容量いっぱいまで充電）して保管してください。使用せず1ヶ月以上保管をされる場合は、1ヶ月おきに満充電まで充電をしてください。

- ⚠ 注意 車いすを使用しないときは、バッテリー遮断器を必ずオフにしてください。子どもや、操作を知らない人が操作すると危険です。

オプション品 太ももサポート お手入れ方法

- 【パット部】 ●カバー…洗濯できます。水洗いをしてください。
- 中材…洗濯できません。
- 【受け/差込金具部】汚れたときは、水を含ませた布を固く絞り、表面の汚れをふき取ってください。

12 故障かな?と思ったら

故障ではない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。

走行時

こんなとき	ここを確認	こうしてください
走行しない	バッテリーが切れていませんか	バッテリーを充電してください。
	外気温が氷点下の時や夏の炎天下で走行していませんか。また外気温が氷点下になる場所や車内など高温になる場所で保管していませんか	バッテリーが適温になるまで待機してください。
	操作レバーを倒したまま電源をオンにしていますか	操作レバーを中立にして電源操作をやり直してください。 直らない場合は当社にご連絡ください
	オートパワーオフ機能で自動的に電源が切れたままになっていませんか	電源を入れ直してください
	電源がロックしたままになっていませんか	電源ロックを解除してください
	無理な走行をした後でモーターがオーバーヒートしていませんか	電源を切ってしばらく休んでから走行してください
	バッテリー遮断器がオフになっていませんか	バッテリー遮断器をオンにしてください
	車輪ロックが解除されていませんか	車輪ロックをかけてください
	電動操作部のケーブルが断線していたり、抜けていませんか	当社まで連絡してください
	充電器が繋がったままになっていませんか	充電を停止し充電ケーブルを抜いてください
低速でしか走行しない	ティルト角度を20度以上倒していませんか	ティルト角度を20度以下にしてください

走行時

こんなとき	ここを確認	こうしてください
パワー不足	大きな負荷が掛かっていませんか	積載荷重や登坂角度を確認してください
	外気温が下がっていませんか	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります。気温が戻るまで待機するか、使用を控えてください
	バッテリーが劣化していませんか	新しいバッテリーに交換してください。当社まで連絡してください
	バッテリーの残量は十分ですか	速やかに安全な場所に移動し、電源を切って、バッテリーを充電してください
走行距離が短い、スピードが出ない	バッテリーが十分に充電されていますか	新しいバッテリーに交換してください。当社まで連絡してください
	外気温が下がっていませんか	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります。気温が戻るまで待機するか、使用を控えてください
	重い荷物をのせていたり、坂道を走行していませんか	負荷が大きくなると走行距離も短くなります。使用者最大体重（積載物を含む場合）を確認してください
	スピード設定が低速側になっていませんか	高速側に調整してください
異常な振動や異音が出る	車軸取付け部がゆるんでいませんか	当社まで連絡してください
	駆動部から異音がしませんか	当社まで連絡してください
	車いすフレームやキャスト（前輪）にガタつきは出ていませんか	当社まで連絡してください

- 車を起動すると電子装置の一部は検査されます。この一部に問題が生じると電動操作部のバッテリー残量表示ランプと速度表示ランプが早く点滅して問題を表示します。
- 走行中にエラー表示はされません。次回起動時に表示されます。
- エラー表示中は電子装置に問題が生じているため電動走行はできません。

充電時

こんなとき	バッテリー表示ランプの点滅	速度表示ランプ	こうしてください
バッテリーの電圧低下	LED1個 	—	バッテリーと操作パネルまでの接続不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
左走行モーターの故障	LED2個 	—	左走行モーターの接続不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
左走行モーターのショート	LED3個 	—	左走行モーターの配線の導通とケーブルの接続不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
右走行モーターの故障	LED4個 	—	右走行モーターの接続不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
右走行モーターのショート	LED5個 	—	右走行モーターの配線の導通とケーブルの接続不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
バッテリー充電器が接続されています。	LED6個 	—	充電器のケーブルを外してください
ジョイスティックエラー	LED7個 	—	車を起動時にジョイスティックを動かしていないか確認してください
操作システムのエラー	LED8個 	—	走行ユニットと電力モジュールの間のコネクターを確認してください。使用を停止し、当社まで連絡してください
ブレーキ回路の故障	LED9個 	—	磁気ブレーキへ配線の導通不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
バッテリーの電圧が高すぎる	LED10個 	—	バッテリーと、バッテリーと電力モジュールの間のコネクター不良が考えられます。使用を停止し、当社まで連絡してください
通信エラー	LED7個 		通信エラーが検出されました。電動操作部のケーブルに破損がなく、正しく挿入されていることを確認してください

※ チェックしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社にご連絡ください

13仕様

製品名	アクトモア M1	
本体外形寸法 (全長×全幅×全高)	109×63×102.5~110cm ※ヘッドサポート含まず	
座幅	40cm	
座奥行	38・40・42cm	
前座高	41・43.5・46cm	
電動ティルト角度	0~50度	
リクライニング角度	85~110度	
重量	約144kg	
タイヤ	前輪・後輪	7インチ
	駆動輪	約14インチ
アームサポート高	25.5~36cm (無段階調整)、跳ね上げ式	
フット・レッグサポート高	32~38cm (無段階調整)、エレベーター式 (10段階)	
駆動方法	MR (中輪駆動)	
操舵方法	操作レバー／標準仕様：ジョイスティック型 オプション：ラバードーム型	
電源	AC100~240V	
充電方法	プラグ充電	
標準充電時間	8~12時間	
最高速度	前進	6km/h
	後進	2km/h
連続走行距離	約25km ※バッテリー満充電、気温18~25℃、体重70kg、直線平坦6km/h連続走行時	
実用登板角度	10.5度	
段差乗越	4.8cm	
使用者最大体重	100kg (積載物を含む場合136kg)	

製品名	アクトモア M1オプション品 太ももサポート (左右)		
パット外形寸法 (長さ×高さ)	20×9cm (片側)		
重量	約680g (片側) 金具含む		
素材	パット部	中材パット	ウレタンフォーム
		カバー	ポリウレタン、ナイロン
	受け金具／差込金具部		アルミニウム

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

株式会社フロンティア

フクシのクトハ

フリー
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港42-4
TEL.043-301-8338



●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店